



だから言う、「がんばれ！」と

いよいよ最後の月になりました。この一年間の学校運営にご理解とたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。3月を迎え、それぞれの学年では、学期末や学年末の取り組みに忙しい毎日を送っています。とりわけ6年生は、18日(水)に迫った卒業式に向けて、本当のラストスパートをかける毎日になるでしょう。小学校時代にやり残したことがないように、残された一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

今年度も、4月の始業式から毎朝子どもたちを学校に迎え入れました。天王寺小学校は、ほとんどの児童が学校南側にある地下道を通して通学するので、いつも地下道の上り口あたりで待っています。一度地下道に降りてあいさつを試してみたことがあるのですが、みんなの「おはようございます!」の元気な声が地下道内であまりにも大きく響いてしまったので、それ以来外で迎えるようにしています。また、正門から登校する子もいるので、水曜日は北側の正門で待つようにしています。中には、そのことを知っている子がいるので、間違えて地下道の出口に立っていると、「校長先生、今日水曜日やで。」と教えてくれることもあります。

いったい何日くらい立っているのだろうと数えてみると、一年間で200日近くになりました。たまに所用で立てない日もありますが、子どもたちと朝のあいさつをすることで、私もものすごく元気が出るので、可能な限り立つようにしています。

本校は、集団登校をしているので、ほとんどの子どもが10分間程度で登校を終えてしまいます。できるだけ全員とあいさつしたいと思っているのですが、あいさつを交わすだけでなく、話しかけてくる子や、中にはジャンケンを仕掛けてくる子もいるので、なかなか忙しいです。しかし、登校時間のピークを過ぎると、一気に人影が少なくなります。それでも、チラホラと遅れて登校する子がいるので、地下道入口の鍵がかかるまではできるだけ立っているようにしています。そして、遅れて登校する子には、様々な事情があると思うのですが、私はいつも「よく来たね。」に続いて「がんばってね。」とか「がんばりや〜っ。」と声をかけています。

励ましの言葉である「頑張れ」は、もともと「我を張る」という言葉が語源で、自分を押し通すことを意味しますが、時代とともに忍耐して努力を重ねることを励ます言葉として使われるようになりました。たまに「頑張れというのは、追い込むことにつながる所以说うべきではない。」という意見を耳にすることがあります。もちろん心が折れるまで頑張る必要はありませんし、置かれている状況によっては他の言葉がふさわしい時もあるでしょう。しかし、とことん頑張った経験のない子に最初から頑張らなくていいと言ってしまうことはその子の可能性をつぶしてしまうような気がして、本当にその子のためになるの



だろうかと考えてしまいます。頑張れと言われて、頑張るかどうかはその子が決めることだし、本当に頑張ったかどうかは、本人が一番よくわかっているのではないのでしょうか。大人は、傍^{はた}から見
て評価するのではなく、子ども自身が「がんばったよ。」と言える関係や環境を作っていくことが
大切なのではないかなと思います。

今年度は、「やりたいことができる学校に」という願いで、学校運営をしてきました。先生方や
子どもたちにやりたいことがあればよいのですが、やりたいことが見つからない人にとっては難
しい一年だったかもしれません。また、やりたいことがあってもできなかった人がいるかもしれま
せんし、やったけれども思い通りの結果につながらなかった人もいるでしょう。でも、毎日の学校
生活に対して、少しでも前向きな気持ちになればと思い、いろいろな場面で「がんばれ」と言い
続けてきました。それは、私自身が、これまでの経験から「どんな努力も決して無駄にはならない」
ということを知っているからです。だからこそ、今日も、明日も、これからも「がんばれ!」と声をか
け続けていきたいと思っています。

感謝のことば

たまたま初めて校長として赴任した学校で、前任の校長先生が「校長室だより」を出されてい
ました。自分の代で途切れさせるのもどうかと思って書き始めたのがきっかけで、歴任校でも書
き続け、気づけば天小だけでも30号以上発行していました。私としては、いたって当たり前のこと
ばかりを綴ってきたつもりですが、保護者や地域の皆様から「毎月楽しみにしています。」と声を
かけていただくことや、本校だけでなく他校の先生方からも感想をいただくことが励みになって
書き続けることができました。でも同時に、だんだん期待のハードルが上がるような気がして、月
末が近づくと何を書こうか悩むこともしばしばでした。そんな時には、締め切りに追われる作家
になった気分を味わっていました。

ときどき、「学校は閉鎖的」とか「先生の常識は世間の非常識」とか言われることがあります。
確かに学校は独特の世界かもしれません。もっと開かれた学校にしたいと思い、毎日学校の様
子をホームページで発信したりしているのですが、まだ十分伝えきれていないと感じています。ま
た、これまで学校だからということで不問にされてきたことも、世の中の変化に合わせて変えたり、
ていねいに説明したりする必要性を感じています。

だからと言って、子どもや保護者をお客さんのようにしてしまっはいけないと思います。私は、
学校教育とは、子どもを中心に置き、子ども自身の頑張りを、その子の未来を見据えて学校と保
護者が同じ方向を向いて支えていく営みだと思っています。そうした思
いを直接伝える方法の一つとして、「校長室だより」を書かせていた
きました。拙文^{せつぶん}ゆえに伝わりにくいところが多々あったと思いますが、ど
うかご容赦^{ようしゃ}ください。そして、これまでお読みいただき、ありがとうございました。
ました。

